

鶴見川で観察されたイソシギの黒化個体

石 江 馨・石 江 進

1979年9月18～19日に、横浜市港北区の鶴見川川向橋付近でイソシギ (*Tringa hypoleucos*) の黒化個体と思われる1羽を観察した(図-1)。近くにいた正常羽のイソシギと比較して、次のような特徴が観察された。

1)大きさにほとんど差はなかったが、正常羽の個体に比べてやや細身に見え、そのため足も長めに見えた。

2)羽色は全体に黒褐色で、上面濃く、下面はやや淡い。尾及び下尾筒は黒色、嘴と足は正常羽のものに比べてやや暗色にみえた。翼下面は白く、伸びをした時に目立った。翼上面の白帯は正常羽ほど白くなかったが、飛翔時には目立った。

3)正常羽より動作は緩慢で、尻を振る動作もあまりしなかった。しかし昆虫を追って護岸を駆け上る時はかなり敏捷であった。

4)鳴き声は観察中一度も聞かれなかったが、正常羽の

方は頻繁に鳴いていた。

5)警戒心は強く、近づく事を許さなかった。

なおその後、川の水位が上り、州が消滅したためみられなくなったが、水位の下った10月14日に再び同一場所で観察する事が出来た。

羽毛で最も普遍的な色素は粒状のメラニン(黒色)で暗黄色から黒色までを現わす。カロチノイド(リポクローム)は種類多く液状で黄色から赤色までを発現させる(黒田長久 1962 動物系統分類学10(上)による)。

羽毛の一部あるいは全体に分布するカロチノイドがメラニンに置換したり、あるいは正常でも存在するメラニンの量が異常に増加したような状態を黒化(メラニズム)という(編集部)。



図1: イソシギの黒化個体
横浜市港北区 1979. 9